



山上自治会新聞

(仮題)

特集 二十一世紀へ向けて 山上自治会新聞計画

組長の皆様へ

この見本について

いつもお世話になってます。前回十月九日にゴミと犬の糞問題で発言した番組の木村です。あの時にお話した自治会新聞の見本を作ってみましたので御覧下さい。……と言ってもここにはゴミや犬の糞問題の記事はありません。それについては、おらほど有志の方々と御一緒に特集号を作れたら……と思っております。今回は提案について色々考えているうちに御覧のようなタイトルになってしまいました。御大層すぎるかなとも思うのですが、他にピッタリしたものが浮かばなかったもので……恐縮です。

……という訳で、これはあくまでも「自治会新聞」に関する私(木村)の個人的な提案ですので、そのつもりでお気楽にお読み頂きたいと存じます。

志は「新聞の見本」という事です。内容的には週刊誌に近いかもしれませんが、とりあえずはホームの売店で週

刊誌を買った時の感じで、ある程度まで無責任な姿勢で読んで下さい。ざつと全体を見渡して頂いて、面白そうなタイトルが御座いましたら、そこを拾い読みして頂くだけで結構です。

私としては、一つの記事を拾い読みしたら、それに関連する次の記事を自然に読みたくなるような、面白い紙面作りに努めたつもりです。そろそろ次々と拾い読みをして頂いているうちに全体として自分が皆さんに伝えたい事を理解して頂けたらと思っております。少々ムシの長い思い上がった考えですが、お許し下さい。もしも御覧頂いての感想や御意見が御座いましたら次回十二月の会議で是非ともお伺いしたいと思っております。

この提案について

変化する日本

二十一世紀まであと二年と少しです。御存知のように現在の日本は大きな社会変革の時期に入っています。その変革の流れはヒタヒタと私達の日常生活にも及び寄っております。



身近なところでは四日市市の財政問題があります。市の財政改革によって恐らく何年かのうちに自治会活動にも直接の影響が現れるはずだといふ事、具体的には、センター業務の縮小に伴って自治会活動の負担が増えるだろうという事などは既に九月の組長会議で伺いましたが、……。そんな事はホンの序の口の小さな表面的な変化に過ぎないと私は思っています。現在私達の目の前で進んでいる変化は明治維新あるいは太平洋戦争終戦後の頃にも匹敵する大変革だと言われています。

ピンチをチャンスに？

このような状況は日本にとって決して悪い事ばかりではないはずです。ピンチはチャンスだとも言います。新しい国の在り様に向かつてのシナリオは既に何通りも用意されています。困難の時期に向けて日本の政府や各政党や官僚や経済人や学会知識人などの迎撃態勢は整いつつあるようです。

……と言ひ訳で、御存知のように

二十世紀へ向けた新しい法律や制度が次々と制定されたり導入されたりしているのが日本の現状です。規制緩和、情報化、国際化というのがキーワードだそうですね。

このような変化する日本の中で私達の生活はどうなっていくのでしょうか？ピンチをチャンスに変える事が出来るのでしょうか？

自治会の力

ところで、これも皆様御承知のように、自治会は個人や家庭で解決できない地域の問題を解決する力を持っています。例えば四日市市街部には出役する愛護者から子供や女性を護る為に自警団を組織している自治会があったりします。悪臭などの公害を撤き散らす工場や施設に対応したりしてくれるのも自治会です。

又、それとは別の方向の可能性として夢や希望の実現という例もあります。例えば、東京の只中に本格的な森を作ってしまった板橋区のサンシティ団地管理組合のように、……。

情報化という視点から

そのような自治会の力に期待して皆様にお話ししたい事があります。他でもありません、来るべき二十世紀へ向かう山上自治会の新しい在り方に関する御提案です。……と言つても私

が山上自治会全般についてお話できるはずはありません。その為の経歴も技術も知識も持ち合わせていませんから、しかし、情報化という点についてなら山上自治会に対して感じている問題点や夢や希望は幾つもあります。

……と言ひ訳で、次の節からはとんでもない事を突然に申し上げる事になると思います。今の段階では一つ

の夢物語として聞き流して頂くほうが良いのかもしれませんが、

もちろん私としては自分なりの体験と専門的な知識や技術の裏付けに基づいて真剣に御提案申し上げているつもりです。これについての突っ込んだ質問を頂ければ有難いとは思っています。

けれどもやはり、これは皆様から見れば浮き世離れした変人の寝言に過ぎないかもしれません。そのように受け止められて無視されてもかたのな事だと思いません。

ともあれ、あと四ヶ月程で二年に及ぶ組長生活も終わりです。この提案は私にとって、中上の「理長短期大学」に対する卒業論文のようなものなのかもしれない、とも思っています。

☆



二十一世紀へ向けて 山上自治会新聞 計画

インターネットの利用

世界への発信

自治会新聞は日本全国 いや全世界 向けての働きかけの大切な 一歩です。つまりインターネットのホームページを開設する為に必要な足場をつくる事が自治会新聞の目的の一つです。

ホームページの運営に必要な費用は とりあえず 一ヶ月に二千円程度です。それだけで山上の人々の生活や考え方や意見や希望を日本全国 いや場合によっては全世界の人々に伝えたり、それに対する教えや助けを求めたりする事が出来るようになります。そうする事によつて今までは考ええる事も出来なかつたような大きな問題を解決したり、大きな夢を実現したりする道が開けます。これが情報革命の威力だと思えます。

もちろん それは簡単な事ではありません。その為の知識や技術や見識が必要で、けれども それを実現するだけの力が山上自治会にはあると私は感じています。

データベースの蓄積

人々に働きかけたり教えや助けを求めたりするには、まず自分の事を知つ

てもらわなければなりません。その為には山上自治会の事を深く広く調べ尽くしたデータベースのようなものが必要で、そのデータベースを作るのが自治会新聞の目的です。



データベースと言つても、実際には山上に住んでいる様々な人々の生活や考え方や悩みや希望を出来るだけ多く出来るだけ詳しく、しかも「面白く」表現した週刊誌のようなものを私は考えています。

ともかく、一年程度の期間に渡つてゴミや犬の糞問題を始めとして様々な

テーマについての

面白い「特集新聞」を作り、蓄積してそれをホームページのメイン記事にしようという訳です。

人の心は皆同じ？

日本全国には何人の組長さんがいらつしやるのでしょうか？ それらの組長さんはどのような悩みや希望や夢を抱えているのでしょうか？

旅行をした時に皆さんもお感じになると思うのですが、日本中どこへ行つても同じような学校や寺や役所や店が並んでいます。日本全国に働きかけるといっても結局は同じ日本人です。私達 中上人の考えや感じ方たや

悩みや望みは私達だけのものではありません。いや、それは全世界の人々についても言える事です。結局は同じ人間です。社会人です。新しい二十一世紀という時代を迎えるにあつての不安と希望を抱えながら目の前の生活に追われているのが全世界に生きている私達庶民の現在只今の現実です。そのところにこの計画の可能性があると私は思っています。山上の人々が感じているに違いない様々な事柄を深く追求して行けば必ず日本全国 いや全世界に通用する「面白い」記事が作れるに違いないと考えています。

若い人々との交流

現在インターネットは若い人々を中心に猛烈な勢いで普及しています。この山上にもインターネットを利用して若者は大勢いるに違ひありません。彼等に、この計画を手伝つてもらふ事が出来るはずだと思います。

最初の新聞の段階からは無理かもしれませんが、ホームページを発信する頃には、この計画に若い人々も参加する様になるに違ひないと思います。

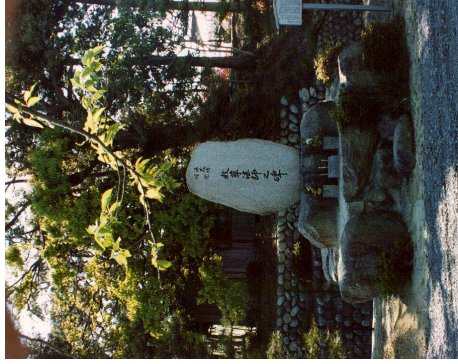
ホームページの作成等を通して彼等に山上全体の事や自治会活動の事を理解してもらつた良い機会になるだろうと思います。又、若い人々の新鮮な感覚や意見を自治会活動に取り入れる機会にもなるに違ひありません。

自治会新聞の内容について

山上の可能性

山上の人々は日本全国 いや全世界 向かって働きかけるだけの力を持っているはずだと私は申しました。

その力を掘り起すのが自治会新聞の役員だと思います。今現在、山上の人々の一人一人が個人個人で抱えている考え方や感じ方や昔の記憶があるはずです。それらを丁寧に集めて回る事によって大きな力を生み出す事ができると私は考えています。具体的な例について以下の記事でお話したいと思います。



山上の歴史

戦国時代、江戸時代を経て明治、大正、昭和、平成と流れる山上の歴史は一つの財産だと思います。それぞれの

時代の事に詳しい山上の人々から話しを集めて回って、それらを「面白い」記事としてまとめれば、それだけでも日本全国、いや全世界の人々に訴える力は十分にあるはずだと私は思っています。又、それは山上の人々自身にとっても「面白い」記事になるに違いないと思います。

「面白い記事」と言うのは、読み応えのある記事」とか、読んで得をしたと感じられるような記事」とでも言うような意味ですが、これは非常に重要なポイントです。中上自治会新聞にしても、中上ホームページにしても面白くなければ人々に読んでもらえる訳がありません。読んでもらわなければ人々に働きかける事など出来る訳がありません。

現在の話題

次に、現在の私達が抱える問題に関する記事について考えてみたいと思います。例えば、変わりつつある人情についての話題などはどうでしょうか？

時代の流れ

共同農作業の必要上から江戸時代以前多分に生まれて現代まで続いていた財産区が解散するそうですね。

既に触れたように、山上は戦国時代以来の歴史を持つ昔からのムラ社会です。その山上にも新しい時代の波が押し寄せてきています。日本社会の変化に伴って、山上の人々の生活にも大きな変化が起きるのは当然の事でしょう。村人全員が一つの家族のように親しかつた時代の事は遥かに遠い昔話になってしまいました。今では下手をすると隣組の家庭に新しく入った嫁さんや新しく生まれた子供の事も殆ど知らないままに過ぎてしまいます。

新しい問題

そういう変化によって確かに個人は自由になりました。特に嫁さんや子供達といった弱い立場にいた人々は村の皆から監視されているような窮屈な毎日から開放されて伸び伸びとした生活を送っているようです。男達もそれなりに威張れないけれど無責任で安易な生活を楽んでいるのかもしれない。

しかし変化に伴って様々な問題も生



まれてきているようです。さすがに未だ桜地区にまでは及んで来てはいないようですが、小学校児童の荒れ等といった問題も、根の部分には日本の家族や地域共同体の変化が横たわっていると言われています。生ゴミや埋め立てゴミを勝手な時に勝手に散らかしたり放り込んだり、犬の糞の始末も勝手に散歩したり、……といった妙な「個人の自由」が横行している事も小さいけれど見逃せない問題です。昔の良さを取り入れた新しい地域共同体の在り



昔の良さを新しい形で

それらの問題を自然な形で押さえ込むのに最も有効なのは地域社会全体の良い意味での昔風の監視態勢の強化だと私は思います。人は自分が良く知っている相手に対しては礼節を守り守るにはられない心を持っています。又自分の事を良く知っていると感じる相手に対しても非礼を控える傾向があります。自治会新聞によつて自治会の人々が互いに相手の事を深く知る事が

方を考えるべき時期に来ているのではないのでしょうか？



出来れば幾分かは問題の解決になるのではないかと考えます。

「山上の犬」 「山上とこの人」

例えば、そうした問題に関する次の様な記事は如何でしょうか？

新聞で山上の犬を写真入りで一匹紹介します。勿論、取材時には糞の問題はおくびにも出しません。愛犬家に自分の犬を自慢するという形で犬に対する思いを語ってもらうのです。成功すればそれだけで、その人に関する限り糞の問題は解決していくと思われれます。中上とこの人という記事にも同様の狙いがあります。ゴミの放

置に関して問題のある人を発見したとします。その場合、当人の問題を問題として指摘するのではなく、その人の心理を良い方向に持っていく為の紙面作りは可能だと思います。又、こうした原理は個人だけではなく企業や組織にも当てはまるはずで、インターネットの相乗効果を利用する事によつて将来的には竹屋の臭気問題のような大きなテーマも扱えるようになるはずだ、と思っています。

大切な基本

そういう記事を作る場合、最も大切な事は礼儀だと思います。犬の糞やゴミの問題を解決しようとして当事者に

取材するというのは非常に失礼な事だと思ひます。その失礼を失礼でないと感して貰うのは大変難しい事だと思ひます。しかし、その難しい取材も、もう一段深いところから姿勢を整えれば不可能ではないと思ひます。

長老の力、若い人々の力 (取材の方法について)

こうした紙面作りには山上ならではの昔からの村社会の知恵が生かされるはずで、その為には川口さん等、「村の長老」に記者として活躍して頂く事が是非とも必要です。年の功という事でしょうか？昔の人の話の運び方には独特の深みを感じられますから。単に足元だけではなく、本当に当人と地域を思ふ心から出てくる言葉には独特の力がありますから。読み手である自治会の人々にとつても取材された当人にとつても面白いタメになる話を引き出す実力は十分だと思ひます。けれども問題によつては若い人々の力を借りたほうが良い場合も考えられます。その為の人材をどう見出していくかが、その方面へ向かう場合の課題だと思ひています。

☆

山上と、この人 内容の実例として



編集の基本方針 (私案)

ここまでに申し上げて参りました様々な内容を、どのように表現するかについて私は次のように考えています。

.....

この新聞で、メインに置きたいのは昔の組会(組の寄り合い)で行われていた世間話の紙面化、と言ったような

記事です。特に最初の内は、主として親睦を目的とした雑談風の「面白い」紙面作りを目指すのが良いと思います。

まずは「面白い」で人集め

前の章で申し上げたように、新聞にしてもホームページにしても人々に読んでもらわなければ意味がありません。その為には「面白い」記事が是非とも必要です。読者の方々が面白くないと思つて気軽に付き合っているうちに

何となく大切な「何か」が伝わるといふような効果を狙いたいのです。そういう意味で、既にお話した次のような記事は如何でしょうか？

「山上と、この人」

探してみれば山上には思いがけない経歴を持っていたり面白い生き方や考え方や感じ方をしている人がたくさんいらつしやるに違いないと思います。いや、ごく普通に暮らしている方の生活の中にも思いがけない興味深い一面があるはずだと思います。

例えば戦時中から戦後の混乱期を経て高度成長期やバブルの頃の事なども含めた、広い意味での山上の歴史を、様々な人々に「昔話」として語つて頂くというのも面白いと思います。それらを集めて一つの人生ドラマ集のようなものを作るというのが、この企画です。そうした人生ドラマの中には様々な深い濃い問題が自然に現れるはずだと考えています。

問題解決の一手段として

また、それとは別に例えばセントラルゴルフの社長！とか、市のゴミ収集係りの人等、私達の生活と直接関係のある山上外の人々から色々な話を伺つて、それを記事にするのも良いと思います。様々な問題の、より広く深い解決に役立つはずだと思います。

結果として、山上自治会新聞は読み

物として非常に面白い内容になるに違いないと私は確信しています。場合によっては、般書籍としての出版も可能になるかもしれないと思います。

内容の実例として

そのような方針に沿つて「面白い」記事を作る為には奇麗事だけではなく突っ込んだ取材インタビューが是非とも必要です。しかし、今の段階では、その種の突っ込んだインタビューは不可能です。相手になつてくれる人がいませんので、.....。

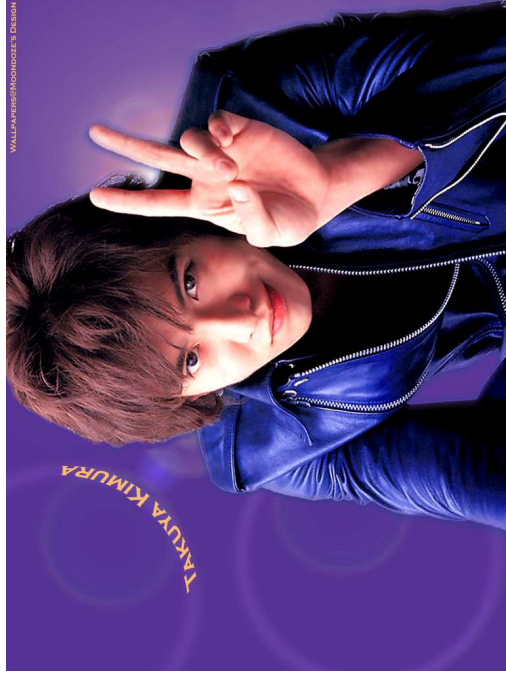
そこで、今回は私自身をテーマとして一つの見本記事を作つてみる事にしました。私の話が「面白い」かどうか、自信はありません。しかし、私が考えている「山上と、この人」とはどのような記事なのか、これを御覧願えれば具体的な内容をイメージして頂く事は可能になると思います。

この計画の背景説明として

この記事の中で申し上げたい事は、この計画の背景としての私の経歴です。それを通じてお伝えしたい事があるのです。自分が何故このような計画を考え出して訴えなければならなかつたのか、...そのあたりの事情を皆様には是非とも知つておいて頂きたいのです。

.....

それでは、以下から私の経歴をお話致します。よろしくお付き合いの程、



お願い申し上げます。

普通に生きるという事

「鵜の真似をするカラス水に溺れる」
とでも申しましょうか？ 自分の分を
わきまえずに大き過ぎる望みを抱いた
為に人生を棒に振ってしまった。…と
いうのが私の経歴だと言えるでしょう。

「普通に世間並みに生きる」という事
が如何に大切か……。この事をお伝え
するのに今の私ほど適切な人間はいな
いと思います。

しかし色々な人がいてこそ世の中は
成り立つし発展するという考え方もあ
り得ます。私のような人間も場合によ

つては世の中のお役に立てるかもしれ
ません。特に現在のように「普通でな
い時代」には、その事が言えるような
気がします。

私の略歴と現在の状況

私は昭和十八年生まれの五十六歳で
す。今から三十二年前に京都市立美術
大学（現在の京都市立芸術大学）工芸
科を卒業して或る大手スーパー（現在
のジャスコの前身オカダヤ）に就職し

一年足らずで退職してから後は定職に
つかず、従って結婚も出来ず今日ま
で来た、というのが大まかな経歴と現
在の状況です。

人生の分かれ道

このような人生を送る事になったの
には様々な理由があるのですが、直接
的な契機は大学卒業の後に出会った或
る「事件」でした。

その頃の私は最初の就職先で企業の
本部に在籍しており、そこから末端の
現場の人々と接する立場に居ました。

経営者に直属する本部では企業活動
の全ての方針が次から次へと定められ
て行きます。その為の会議に出席させ
られた私には、それは「いかげんな
もの」にしか感じられませんでした。
今にして思えば自分が未熟で会議の内
容を理解できなかっただけの事なので
すが、…………。

ともかく、そういう「いかげんな」

指令に対して、それを疑うことなく従
順に従って馬車馬のように働いている
末端の現場の人々を「眺め」ながら考
えさせられる事の多い日々でした。

使う人と使われる人

サイモンとガーフアングルの歌に
「コンドルは飛んで行く」というのが
ありますね。その中の「私は釘ではな
く金槌になりたい」というフレーズが
心にしみみます。

社会には他人を使う立場と他人に使
われる立場という「種類」の立場がある
というのは当たり前前の事実です。又
使われている人が不幸だとは限りませ
ん。上に立つべき人々がハッキリした
方針も打ち出せないままに迷走してい
た日本の近況を考えれば、あの時代の
末端の現場の人々は非常に幸せだ
つと言えるかもしれません。

しかし、世の中には「他人を使う人
種」と「他人に使われる人種」という
「種類」の人種が存在するのだ、という
事実を思い知った事は私にとって強烈
な体験でした。それ程までに世間知ら
ずで育ってきたのが、その時までの私
だった。…………と言えはそれまでの話
ではあるのですが、…………。

「現代文化研究所」

ちょうどその頃に当時トヨタや日本
オリベツナイなどと言った「流企業」の
幹部に対してコンサルティングを行っ

ていた「現代文化研究所」というシン
クタンク（存在を友人から知らされて
非常にショックを受けました。上には
上があつたのです。「現代文化研究所」
という所は日本全体を視野に入れた
様々な企画を行っている人々の集団で
した。そこでは単に人々を「使う」だ
けではなく、日本人全体を「泣かせ、
笑わせ、欲望させる為の研究が進めら
れていました。

人間の社会には「使う人と使われる
人」という種別だけではなく、「泣かさ
れ、笑わされ、欲望させられる人」と
泣かせ、笑わせ、欲望させる人」とい
う「大種の別」もあるのだという、新
たなる事実を目の前の現実的な体験と
して思い知らされたのです。

「エリート」

「なさせている」側の人々は「般に
「エリート」と呼ばれている種類の
人々です。

同じ人間として生まれてきて「方
「エリート」として本部やシンクタン
クで企業や日本の経済文化の中核部で
大局を決定する立場にいます。他方、
末端の現場の人々は、そういう高い立
場にいる人々の実態を知らずに上部か
ら下ってくる命令を丸のみにして馬車
馬のように働いている。泣かせられ、
笑わせられ、欲望させられている。

もちろん現実の世間というものは、
このように単純明快な図式で割り切れ
るものではありません。しかし、何度



も申し上げますが若かつた私はその
発見」に驚かされ、その事実について
幾つもの意味で深刻に考えさせられ
ました。

負け犬

残念ながら私には企業 いや、日本
社会 一般が 「エリート」 として要求し
ている能力や気質が基本的に不足して
いました。これは私自身の意識とは無
関係の現実でした。

まず第二に、当然の事ですが 「エ
リート」 には或る程度以上の実務能力が
必要です。次に必要なのが、種の非情
な心性です。悪く言うなら、或る意味
で自分を捨てて人間を人間と思わずに
将棋の駒のように扱う事のできる非人
間的とも言える強烈な心の動きです。

勿論、その底にはそれだけの使命感と
か信念の裏打ちがあつての事ではあり
ますが……。あらゆる意味でそうし
た実務能力や心情から遠い所にいたの
が当時の私でした。

実力不足で職場の中で負け犬になり
かけていました。そのくせ妙なプライ
ドだけは強くて集団に溶け込めず、何
とか、自分はエリートだ」という意識
を保とうとしていたのです。

転落

「エリートの世界」 「エリート」 の生
活」 を知らなければ、あれほどの苦し
みは味わえないままに素直に自分の限
界を認めて非「エリート」として社内、
いや、日本の片隅で、つましくし
かし誠実に生きていく幸せを選び取る
事が出来たかもしれません。

……しかし、現代文化研究所」
によつて 「エリート」という言葉の眞
の意味を実感として知らされてしまつ
た私には、その決心が出来ませんでした。
人間として生まれてこのまま非
「エリート」として人生を終える事は耐
えがたい屈辱に感じられたのです。

今となつては下らないといつか、
かなり見当外れの危険なこだわりだつ
たとも思うのですが、三十年以上も前
の時代の空気の影響もあつて、若い頃」
の私にとっては深刻な問題でした。

こんな事で悩んでいる哲学志向の未
成熟な人間が無難に世間を渡る事は、
まず不可能です。結局はノイローゼに

なつてしまつて会社を退職する事
になりました。

結局は臨床カウンセリングへ

最初の就職先から飛び出した後
はセールスマン・工員など様々な
職業を転々としながら幾つかの新
興宗教に直を突つ込んだりしてい
ました。自分の中に隠されている
かもしれない 「エリート」として
の能力を引き出してくれる場所、本
当の自分」 を目見めさせてくれる場所
または相手を求めて……。

様々な場所を捜し求めた果てに、最
終的に落ちて着いたのは名古屋大学の教
育学部にある臨床カウンセリングの美
験的クライアント (患者) という立場
でした。本来は登校拒否や拒食症など
の問題を抱える親子を心理面から援助
する為の場所なのですが、心理学に興
味を持つ者への美験としての例外的な
対応をしてもらつた訳です。

才能があつて運が良ければ、このよ
うな種類の人間は何等かの分野で作家
として生活の道を切り開く可能性もな
くはなく、そうした期待がカウンセラ
ー氏の側にもなくはなくて、私自身も
その方向 (特に出版関係) で様々な試
行錯誤を続けて来ました。

新しい希望？

そうした生活を十五年以上にも渡つ
て続けたあけく、進退極まつてカウ



セリングの場を飛び出さねばならなく
なつたのが七年前の事でした。

直接的な原因は文芸春秋社の「地球
新時代の日本」という懸賞論文に落選
した事による自信喪失と絶望」と言つ
た所でした。その事がきっかけにな
つて、それ以上はプライドを持つて
クライアント (患者) としての立場に
甘んじる事ができなくなつたのです。

その一方、…私がカウンセリングと
いう最後の隠れ家さえ失つてしまつた
一年半ほど後から、日本の政治経済の
状態が大きくハッキリと変化し始めま
した。いわゆるバブルの崩壊の後に生
じていた社会変動が蒸詰まつて来て、
誰の目にも「これは只事ではない」と
しか感じられない出来事が次々と起こ
りました。政府の経済運営が破綻の兆
しを見せ始め、厚生省、大蔵省などで
官僚の腐敗が進行し、オウム事件に見
られるカルト志向など一部の若い
人々に心の迷いが深まつてきてい
ると言つた状況が、そうした事件の背景



にありました。

非常に不謹慎な考え方であり言い方であるという事は承知していますが、そのような日本の変化は自分にとって大きなチャンスだと私は感じました。

現在の心境

人間とは何なのか？ 生きるというのはどういう事なのか？ という問題について悩ま抜いてきたのが今までの私だった。…と言えば格好のつけ過ぎになります。そういう悩みを日集にして普通に生きる事から逃げ続けてきたのが私の人生だったと言うべきでしょう。

う。当然の報いとして最初に申し上げたような状態にいる訳です。しかし、後悔しても仕方のない事だというのが現在の実感です。

もちろん、こういう心境に到るまでには人並みに悩み苦しみました。けれども…私のような人間が下手に頑張つてエリートへの道を突き進んでいたら、いずれは汚職でもして捕まるのが関の出だったような気がします。例えばオームのようなところに迷い込んで、揚げ句の果てに殺人を犯す等といった事もなく、癌にもかからずにとりあえず生きていだけで儲け物だとも思います。

普通に生きるという事の中身

人間は自分に与えられた人生のどこかで自分自身の限界と言うか「身の程」を思い知るものだと思います。それは苦しく悲しい経験ですが、そうした経験を消化して初めて人は「大人」になれるのだと言います。

人生には自分の身の丈に合った仕事や結婚相手を選ぶべきチャンスが必ず何回か訪れます。既に「大人」になっている人は、そのチャンスを逃したりはしません。普通に生きるというのは、そういう事だと思います。その事をしみじみと思い知るようになったのはつい最近の事でした。

けれども、普通に生きるという事の中身は時代によつて変化するものものようです。今までの「普通」が普通で

なくなつて来る…とでも申しましようか？ 現在の日本は、その変化の只中のように私には見えます。

敢えて思いあがつた言い方をさせて頂くなら、…この歳まで「普通」に生きられなかつた私という人間が「普通でない」状態にある現在の日本に贈ろうとしている「新しい普通」に関する提案…。それが、この計画だと言えるかもしれないと思っています。

☆